

※ 新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、入ゼミ試験当日に実施する筆記試験に代わり、メールにての出題と解答返信という形に試験形態を特例的に変更した。2020 年 3 月 9 日（月）正午までにメールにて受験者全員に同時送信し、3 月 11 日（水）23:59 までに解答の返信を求めることとした。

それに合わせて、本来ならば公平性に十分配慮すべきものだが、試験問題に対して各自がどのように解答するかを見届けることができないことから、試験問題の解答は、どの文献を（誰の意見を）参照したかや費やした解答時間は問わず、解答の完成度で評価することを優先することとした。つまり、求める解答に対して、不足することもなくかつ過剰・蛇足でもないという視点から評価することとした。

1. 次の英文を和訳するのではなく、日本語 400 字以内で要約せよ。要約する際、英文に書かれていないことを記さないこと。

My summary of the current state of knowledge about the effects of fiscal policies can be divided into three categories: government purchases multipliers, tax rate change multipliers, and fiscal multipliers in the wake of the financial crisis.

For multipliers on general government purchases, the evidence from developed countries suggests that they are positive but less than or equal to unity, meaning that government purchases raise GDP but do not stimulate additional private activity and may actually crowd it out. The bulk of the estimates across the leading methods of estimation and samples lie in a surprisingly narrow range of 0.6 to 1. However, this range widens once one distinguishes country characteristics, such as the exchange rate regime, and the type of government spending, such as infrastructure spending. The evidence for higher spending multipliers during recessions or times of high unemployment is fragile, and the most robust results suggest multipliers of one or below during these periods. The evidence for higher government spending multipliers during periods in which monetary policy is very accommodative, such as zero lower bound periods, is somewhat stronger. Recent time series estimates for the United States and Japan suggest that multipliers could be 1.5 or higher during those times. Estimated and calibrated New Keynesian models for the United States and Europe also imply higher multipliers under certain conditions.

For tax rate change multipliers, the estimates implied by the leading methods do not agree. Narrative methods (which use historical documents to find exogenous changes) for tax rate changes typically yield multiplier estimates that are surprisingly large and surprisingly uniform across a number of countries. The bulk of the empirical estimates vary between  $-2$  and  $-3$ . In contrast, most calibrated and estimated New Keynesian dynamic stochastic general equilibrium (DSGE) models imply smaller multipliers, typically below unity for both labor and capital tax multipliers. Time series evidence, theory, and estimated New Keynesian DSGE models all point to tax multipliers being greater in magnitude during expansions than in recessions—that is, these measures suggest that tax multipliers may be procyclical.

Fiscal multipliers might be different in the wake of a financial crisis. However, the evidence for larger national multipliers on the 2009 Obama stimulus package is at best weak. Quantitative New Keynesian models do not find larger fiscal multipliers. Multipliers estimated on cross-state data appear larger at first, but shrink once they are adjusted to be nationally representative. The latest studies on multipliers during

the fiscal consolidations in Europe suggest that they were not higher than usual, either.

※注：dynamic stochastic general equilibrium (DSGE) model: 動学的確率的一般均衡モデル（確率的な要素を入れて異時点間で（現在から将来にかけて）行動する経済主体を描写した一般均衡モデル）

(Valerie A. Ramey, Ten years after the financial crisis: What have we learned from the renaissance in fiscal research?, *Journal of Economic Perspectives* vol.33, no.2, 2019, pp.90–91)

2. マクロ経済学に関する①～⑥の記述について、正しい場合は○、間違っている場合には×、どちらでもない場合は△をつけて答えよ。また、誤っている×の記述とどちらでもない△の記述について、その理由を簡単に答えよ。

- ① 家計が購入する新築住宅に対する投資は、GDPの支出項目の民間投資に含まれる。
- ② 流動性のわなとは、取引動機に基づく貨幣需要が、利子率がこれ以上低下しても増えない状態のことを指す。
- ③ トービンの  $q$  とは、資本（設備）の再取得価格を、株式市場で評価された企業の価値と負債総額の合計で割ったものであり、それが1を下回るとき新規に設備投資を行うのが望ましい状態である。
- ④ 公債が増えるとき家計資産の一部を貨幣に換える方が有利になることから貨幣需要が増えるという公債の資産効果があるとき、LM曲線は公債増発に伴って左上方にシフトする。
- ⑤ 限界消費性向が上がると、IS曲線は上にシフトする。
- ⑥ 自然失業率の状態のとき、インフレ率はプラスになっている。

3. マクロ経済学に関する以下の問に答えよ。

- (1) 保有していた土地の譲渡益、介護職員による介護サービス、大学の授業料、農家の農産物の自家消費は、それぞれ支出面から見たGDP（国内総支出）に含まれるか否か、理由も含めて答えよ。
- (2) デフレーションはどのような要因によって生じるか。いくつかの要因が考えられるが、1つだけ選んでなぜそれがデフレーションを引き起こすのかについて答えよ。その際、マクロ経済におけるデフレーションである（ある1つの商品の値下げではない）ことに留意し、どの要因を選んでもよいが必ず1つだけに限定するとともに、複数の要因を混同しないように記述すること。
- (3) (2)で答えたデフレーションの要因によって、経済的利益を受ける人や集団（企業、政府、組織、世代など）と経済的損失を被る人や集団がある。どのような人や集団が経済的利益を受けたり経済的損失を被ったりするか、その理由も含めて答えよ。

4. ミクロ経済学に関する以下の問に答えよ。なお、(3)以降について、答案に途中の計算過程も記すこと。

- (1) 第1財と第2財の2つの財があり、両者は代替財であるが、完全代替ではないとする。また、上級財（正常財）であるとする。ここで、第1財の価格が上昇すると、所得効

果として第 1 財と第 2 財の消費量はどうか、それぞれの変化とその理由を説明せよ。

(2) (1)と同じ財について、第 1 財の価格が上昇すると、代替効果として第 1 財と第 2 財の消費量はどうか、それぞれの変化とその理由を説明せよ。

(3) ある独占企業が生産する財の生産量を  $Q$ 、その費用を  $C$ 、その価格を  $P$  と表すとする。この独占企業が直面する費用関数は  $C=Q^2$ 、需要関数は  $Q=12-P$  であるとする。このとき、独占企業が利潤を最大化する生産量と価格を求めよ。

(4) (3)のときの、消費者余剰と生産者余剰はそれぞれいくらか答えよ。

(5) (3)と同じ財の市場構造であるときに、総余剰を最大にしようとするならば、いくらになるか。この財の市場において総余剰を最大にするときの条件を示しつつ答えよ。

(6) (5)を実現するために、政府が独占企業に 1 単位当たり定額の補助金（従量補助金）を出すとする。この従量補助金は 1 単位当たりいくりにすればよいか答えよ。

(7) 2つの消費財（私的財）A と B があり、それを消費することにより効用を得る消費者がいたとする。財 A の消費量を  $x_A$ 、財 B の消費量を  $x_B$  として、この消費者の効用関数が

$$U(x_A, x_B) = 2 \ln(x_A) + 5 \ln(x_B)$$

と表されるとする。この消費者は 490 の所得を持っている。いま、財 A の価格が 5 で、財 B の価格が 2 であるとする。このとき、この消費者にとって各財の最適な消費量はそれぞれ何単位か答えよ。

以上